「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

◇◆◇　No.0420　◇◆◇　　17/02/15

【 「分布帯」では、レンジ相場継続との見方に疑義 】

懸念された日米首脳会談における、「円安誘導批判」は見送られたものの、マーケットにおいて懐疑的な見方は依然としてくすぶっている。そのため、ポジションの偏りなども加味したうえで、一段のドル高進行には限界があるとの見方が少なくない一方、ドル/円の下値は堅そうとの声も数多い。つまり、上下ともに動きにくく、しばらくのあいだは方向性が乏しくレンジ相場が続く－－との指摘が有力なのだが、当レターで過去に幾度となく取り上げている「価格分布帯」では、むしろ逆とも言える結果が示されており、予断は許さないようだ。

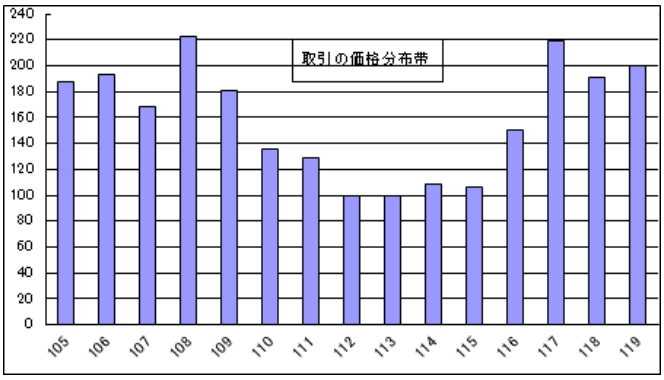
◎112-115 円台は「居心地があまり良くない」、下抜けの危険あり!?

詳細についてはバックナンバーに譲り割愛するが、「価格分布帯」において、過去の取引が多かった価格帯は「居心地の良いレベル」で抜けることは容易でない反面、取引が少なかった価格帯は「居心地が悪いレベル」で、アッサリとスルーしていくような傾向が見受けられる。

そんな「分布帯」において、本稿執筆時に推移している 114 円台を含む 112-115 円台は、いずれも取引日数が 100 日前後であり、「極端に商いが薄い」とは言えないものの、前後と比較すると取引は少なめで、やや居心地の悪いゾーンと考えられる（詳細は下図参照。横軸が取引価格、縦軸は取引日数）。
それに対し、前後に位置する 104-111 円台、あるいは 116-124 円台はそれぞれ過去の取引が厚く、かなり居心地が良いゾーンと言えそうだ。

したがって、「分布帯」の観点から考えると、執筆時に推移している 114 円台などに長期間定着することは予想しにくい。つまり、マーケットで波乱要因のひとつと見られていた日米首脳会談を乗り越えたことで、先にも書いたように有力視されつつある「しばらくのあいだは方向性が乏しくレンジ相場が続く」－－との見方に疑問符が付く結果と言えよう。
むしろ、それほど遠くないタイミングで現在のレベルを上放れるか下放れる、どちらかを達成する公算が大きいことになるかも知れない。

問題は、どちらのリスクが高いのかだが、112-115 円台のゾーンを上方向に放れた場合には 116-124 円、それを少し絞れば 117-120 円台を目指した展開が予想される。118.60 円という年初来のドル高値を視野に入れた展開をたどっても不思議はなさそうだ。
一方、下方向に動いた場合には、多少の時間はかかるにせよ 110 円割れを示現する可能性を否定出来ないことになる。



当レターで別途レポートしているように、筆者は幾つかのサイクルの観点からメインシナリオとして、「今年の夏にもドルはボトムをつける（昨年 11 月 23 日付レターなど）」－－と考えていることからすれば、現状のレンジは下抜けする公算が大きいと考えるのだが、果たして実勢相場は今後どういった値動きをたどるのだろうか。（了）

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆　Copyright （C） fx-newsletter limited company All Rights Reserved　◆◇◆